2023年8月6日(日)
中国新聞 SELECT 掲載

JICAだより

ヨルダン㊤
(2021年から派遣)
福山傑(すぐる)さん(25)
アンマン在住

水泳通じ「幸せ」増やす

「サイード（幸せ）」。JICA海外協力隊の派遣前語学訓練でアラビア語の先生が「現地の人も呼びやすいように」と自身の本名の頭文字を取って私に付けてくれた名前だ。

2021年から海外協力隊員としてヨルダン水泳連盟に所属し、同国の首都アンマンで主にナショナルチームの指導を行っている。

「世界を平和にしたい」。そんな思いを持って幼少期から大学卒業まで続けた水泳を生かし、活動している。競技としての結果だけでなく、この国をはじめ世界のさらなる発展につなげることも夢見て。

練習の仕方一つとっても考え方や習慣の違いで苦労は尽きないが、異文化の中で信頼関係を築くためコミュニケーションを図っていると、他愛もない会話から笑顔が生まれることがある。これが国境を超えた「幸せ」なのだろう。

日本で尊ばれる礼儀や人への思いやりも選手たちに伝えている。「仲間や対戦相手にも感謝を」といった話もする。こうした多様な触れ合いから人としての成長が見られた時、将来のヨルダンのさらなる希望が見える気がする。この国をけん引し、支えていくのは間違いなく彼らだからだ。

民族衣装をまとったヨルダンの競泳ナショナルチームの選手（左右の2人）と

この原稿が掲載される日は、私の出身地・広島の原爆の日。ヨルダンでも「ヒロシマ」はよく知られている。周囲には政情不安の国も多いだけに、平和への思いはひときわ強い。

ヨルダンは中東地域では穏健で安定している数少ない国だ。そのような国で活動する以上、競技で人々に夢や希望を与えるだけでなく、国の発展という未来の「大きな幸せ」や、人同士の交流から生まれる「小さな幸せ」を少しでも増やすことにも取り組みたい。

もしかすると、これが日本から「サイード」として来た意味ではなかろうか。